

酒造りの現場で 社会的起業学ぶ

小樽商大生ら蔵を見学

上川町の上川大雪酒造を18日、小樽商科大の学生や教授らが訪れ、酒造りの様子を見学した。同社の親会社、緑丘工房(札幌市)が進めている教育機関との提携の一環だ。

同大が設けた講座「上川大雪酒造ゼミ」の32人が18日、上川大雪酒造の工場「緑丘蔵」を見学し、川端



上川大雪酒造の酒蔵「緑丘蔵」を見学する小樽商科大生たち。上川町

慎治総杜氏らの講義を受けた。川端総杜氏は、蔵で学生らに酒造りの様子を案内し、「日本中で酒造業が衰退している中で、新しい蔵が増えたのは北海道だけ。休業した本州の酒造会社を買い取って移転する形で創業した私たちがビジネスモデルになった」と説明した。

参加した佐藤匠真さん(3年)は「企業の活動を生で見ながら学べて興味深い。全国的な視点をローカルビジネスに生かすことが成功につながったと感じた」と話していた。

ゼミを担当する江頭進教授は「学生にはベンチャーや地域貢献を使命にした社会的起業の生きたモデルを学んでほしい」と語る。上川大雪酒造にとって小樽商大との提携は、社会貢献と同時に、マーケティングやブランディングのノウハウを得るねらいがあるという。

(三木一哉)